

OB・OGの方々の懇談会では私が中学生の頃に仙台第二高校のオープンスクールで、上の世界をみてみたい、先輩のように輝きたいと強く思ったときのことを思い出しました。二高の先輩方にはすごくエネルギーが溢れています。お話では、私たちの勉強の仕方や両立への悩みを聞いて答えて下さいました。そして、自分の思う文理系の違いな2枚などについても話して下さいました。いずれにしても、具体的でものすごくわかりやすかったです。先輩方のお話が心に響くのは先輩方が積み重ねてきたものがあるからなのだと感じました。最近勉強について悩んでいましたが、勉強に関する3パターンの考え方(学ぶ、遊ぶ、働く)や、短時間で集中する方法、数学のステップの分け方など、こんな考え方・方法があるんだ、そんなに細いんだという発見が沢山ありました。ただ、成績のことだけを気にして方法や手順をちゃんと考えられていなかった今までの自分を見返す機会にもなったので、とても感謝しております。宇宙に関連するレポートを、英語でまとめているのを見せていただきました。ものすごい量の文、そして数式が載せられていました。理系科目にいても、英語は大切であることを実際に感じる事ができました。また、私は中学生のときに休みがちでしたが、中学のころに不登校であったという先輩でも、事業を立ち上げるために大学を休学するという挑戦をしていることを知って自分の世界を広げていかなければと思いました。また、忙しくなって、離れていた読書もしていこうと思いました。

企業大学訪問では、世界的な建築士である伊東豊雄の建築設計事務所を訪ねさせていただきました。伊東豊雄様ご本人には会えると思っていなかったのですが、ご本人が入ってこられたときには驚いて立ちあがってしまいました。こちらでも今から建築の道を決めるのも良いと思うが、世界を広げることも大切だと言われました。伊東様ご自身も、大学に入ってから建築という道を決められたそうです。最初から心に決めてたわけではなくても一生懸命にお仕事に打ち込めるのは、素敵なことだと思いました。今一番興味があるのは建築なので、建物をみて考えたり調べたりしてみながらも、様々なことに興味を持って挑戦していこうと思います。建築の仕事は技術や予算のこと、家具など様々なことが組み合わさっていて、それぞれの専門の人や、事務所のなかの人と関わって話をしてチームとして活動することが大事だと聞きました。自分でよく考えてから、周りの意見を聞き入れて新しいものを生み出すことが必要になるそうなので、今から柔軟に考えたり人に関する興味をもつことで、考え方や価値観の違いなどを吸収できるようになりたいと思います。また、批判や注文をうけたとき、それならこうしようという発想をもつことが大事だとおっしゃってました。私は、注意などされると悲観的になりますが、落ち込むのではなく、改善へと考えを切り替えることを大切にしました。仙台メディアテークではコンペの募集から建物が完成するまで6年ほどかかったそうです。完成するまでに時間がかかっても、その何倍も残って愛し続けられるものをつくれるのはすごく素敵だと改めて感じました。伊東豊雄様がデザインされた渋谷にあるTODSというお店の建物も、お店の方に許可をもらい見に行かせていただきました。お店の前にある樺の木が枝を交わらせているのをイメージされている発想の新しさがあって、ガラスを沢山使われているきれいな建物でした。お店の建物も建築する人が建てる場所のことも含めてよく考えているということ強く感じました。私たちが行ったときはまだ明るかったのですが、夜になるとまた綺麗なのだとお店の方がおっしゃってました。愛されて、人に感動を与えられるのは建築のすごさだと思います。また、伊東様から本とサインを頂きました。

た。本当に嬉しかったです。本来買わなければならないものをくださった伊東様に感謝し、何回も読み返して、自分の原動力としていきたいです。

ディレクトフォースでは、ほんとに仕事や年齢などが大分違う方々のお話を聞きました。1人目の長崎文康様は、私たちは海外に出るときの心構えについて、その地域の常識を素早く習得すること、価値観の違いや、生活の変化を受け入れること、その言語を学んだ上で、自分の意思をはっきりと言えるようになることと書いたのですが、これに対して「どうやるのか」ということを教えて下さいました。宮崎様の考えでは、寛恕をもって色々なことにぶつかり、思いやりをもって受け入れることだということだそうです。あと、積極性や人との繋がりを大切にする事なのだそうです。確かに、人を受け入れるのは心の広さや思いやりがないとできないことだよなと思いました。どうやるのかなど普段考えてないことが多いのだな、と実感できました。富永夏子様は、手に職をつけることをお母様から言われたそうです。焦らずに、自分の興味のあることを探すというのは心にゆとりがないとできないと思うので、すごいと思いました。そして、物事を斜めから見る力をつけてもらいたいとおっしゃっていました。自分の考えていると他の視線をみつけるようにしていきたいです。映像と違う写真の良さは、見る人が色々なことを考えることができ、押しつけにならないところだと聞きました。写真を見る側には考えつかない素敵な良さだなと思いました。そして、嫌だなと思うようなことでも一生懸命やるのが積み重ねになると聞いて、もっとがむしゃらになってもいいかなと思えました。青木庵様は学生時代に、社会に出るためにしとくべき「準備」についてお話を頂きました。1つは、社会で何が起きているのか、それが今後どのように影響していくのかということ、2つ目はどんな変化があろうと耐える資質をもつこと、だそうです。「やるべきこと」は、夢中になることを探し自分を理解する。五感に訴えかける体験を山ほどすること。自問自答をして、人とぶつかけあうことであると教えて頂きました。著しく変化していく社会だからこそ必要なことをたくさん教えて頂きました。身近なことからも疑問をもって考えて答えを出してみることを大切にしたいと思います。但木芙美様は、海外にでるということを積極的にされている方でした。好奇心から行動ができるのだな、と感じさせて頂きました。ニューヨークに出た理由はビジネスの中心であり、移民が多いので多くの文化をみたかったということです。ただ、海外に出ているだけではなく理由があるのがすごいと思いました。自分も、日本でいいやとか未知の世界を恐れるだけではなくて広い世界をみて、感じていきたいと思いました。

全体を通して未来に対して希望が持てました。二高の人はやっぱりすごい。そして、なにかを成し遂げてきた人は同じような考え方をしているということがわかりました。色んな人から話を聞きましたが、繋がりを感じました。今の時間をどう使うかはこれから先にもものすごく影響すると思います。自分世界をどんどん広げていく、そしてその先の景色を見てみたいなと思える研修となりました。このチャンスを変えていきたいです。